

【トラック04】

かな「あ、先生こっちこっち～！」

あやめ「兄貴、こっちだよー」

あやめ「...来るの早かったね、注文はコーヒーで良かった？」

あやめ「このお店？そ、最近オープンしたばかり」

あやめ「うん、学校の近くだからね、この時間はウチの生徒がよく使うんだ」

かな「私もよく来るんだー」

かな「可愛いスイーツが人気で、先生の大好きなJCがいっぱいだよ～♡」

あやめ「兄貴...あんまりジロジロ見ないでよね」

あやめ「くすっ...ねえ兄貴、もじもじしてどうしたの？」

かな「ね、なんか落ち着かないなあ先生」

あやめ「私たちはただ、兄貴の膝をさすさす～ってしてるだけだよ」

かな「先生のお膝をヨシヨシって撫でてあげてるんだよ～」

かな「ゆっくり...ソフトタッチで、おちんぽの近くをさすさす♡」

あやめ「んー？股間のところ、ちょっと盛り上がってるけど...なんでかな？」

あやめ「もしかして...」

あやめ「マゾの変態はこれだけで興奮して、勃起、しちゃうのかなあ？♡」

かな「ロリコンの変態は、よわあい刺激だけで、ちんぽバキバキにできちゃうの？♡」

あやめ「変態...露出癖もちのロリコンマゾ♡」

かな「こんな状況で勃起できるなんて異常だよ？」

あやめ「自覚あるのかなあ？お兄ちゃん♡」

あやめ「ねえお兄ちゃん、私たちに教えて？」

あやめ「このテント張ってるところ、どうなっちゃってるの？」

かな「にひひっ、教えてくれないと分からないよ？」

かな「いにいのこの、バキバキに盛り上がったとこ...何がどうなってるの？」

あやめ「言っごらん？」

あやめ「JCだらけの喫茶店で...左右からJCに膝を撫でられただけでえ...」

あやめ「エッチなこと期待しておちんぼガチ勃起させちゃいましたあ、って♡」

かな「ほら早く、は一や一く一、いに言っちゃいなよお？」

かな「本当のこと言うだけだよ？マゾなら簡単でしょ？」

あやめ「ちゃんと言えたら...今度はここ、マゾ勃起チンポなでなでしてあげる♡」

あやめ「ほら、言えよ変態♡」

かな「うわあ～言っちゃったあ♡きも～い♡」

かな「お外で、しかも周りにJCがいっぱいいる店内で...」

あやめ「くすっ、ちょっと声震えてたけど」

あやめ「ちゃんとマゾチンポ宣言できたね♡変態お兄ちゃん♡」

あやめ「それじゃあちゃんと言えたご褒美に...この固くなったとこ...」

あやめ「犯してあげるね♡」

かな「いじめてあげるね♡」

かな「ほら、さすさす...硬くなったマゾ勃起ちんぽを、さすさす」

かな「こすこす...こすこす...ちんぽ気持ちいい、ちんぽ撫でられるの好き♡」

あやめ「あはっ、お兄ちゃんの雑魚ちんぽ、もう手で掴めるくらいにガッチガチ～」

あやめ「このまま上下にゆっくり動かして...もどかしい刺激でチンコキしてあげる♡」

あやめ「バキバキちんぽを...こすこす...ズボンの中で...しこしこ、しこしこ♡」

かな「ねえいに、周り見てごらん？」

かな「学校帰りでさっきよりも女子増えてきたよ～？」

かな「ここでいにがJC二人にチンシコされて喜んでるって知ったら...」

かな「みんなどう思うかなあ？」

あやめ「蔑まれちゃう？冷たい目で引かれちゃう？」
あやめ「もしかしたらあ、笑いながらキモいって罵倒してもらえるかもよ？」
あやめ「クスクス笑われて...マゾ、変態、ロリコン...って色んな女の子に罵倒されちゃう♡」

かな「うわあ、罵倒されるの想像しちゃった？」
かな「おちんぽピクピク跳ねたよ？」
かな「分かりやすい変態露出狂、にひひっ、ばあ〜か♡」

あやめ「いいんだよ？みんなが見てる中で、白いおしっこびゅーびゅーってして」

かな「高く飛ぶとこみんなに見せて...」
かな「きたなあ〜い」とか「くさあ〜い」とか罵ってもらおうよ？」
かな「マゾバレ...したいんでしょ？」

あやめ「マゾ...マゾバレ...学校の女の子全員にマゾバレ♡」
あやめ「そしたら、このお店に来るたび...居合わせた女の子にマゾだって笑われて」
あやめ「馬鹿にされながらちんちん踏まれたり、耳元で囁きチンシコされたり...」
あやめ「そのまま汚いマゾザーメン、びゅるびゅる発射できるかもよ？♡」

かな「ねえにいに、そろそろズボンつらいんじゃない？」
かな「もうパンパン♡」
かな「ちんちんさん、お外でたいよ〜って言ってるよ？」

あやめ「お兄ちゃんのおちんぽさん苦しそ〜」
あやめ「ねえ...ここで出しちゃおうよ？」
あやめ「どうせ壁際でテーブルに隠れて見えないし」
あやめ「ここで出したらあ、ダブルJCの、ナマ手コキ♡してあげるよ？」

かな「ねえにいにし出しちゃおうよ、かっこいいバキバキの変態ちんぽ」
かな「見たいなあ〜、にいにが私たちに興奮してフルボッキしてるところ」

店員「すみません...コーヒー大変お待たせしました」

あやめ「あ、ありがとうございます。ここで大丈夫です」

店員「？　どうかされましたか？」

かな「いえ、なんでも、ありがとうございます！」

店員「...それではごゆっくりお過ごしください」

あやめ「くすっ、かなちゃんがチンポぎゅ〜って握ったからって、我慢しなきゃダメだよ？」

あやめ「店員さん気にしてたから...チンコキされてるの、バレちゃうよ？♡」

かな「もしかして...あの綺麗な店員さんに見せつけたかったとか？」

かな「そうだよね♡チンポ手綱みたいに握られてニヤけてるキモ顔...」

かな「みんなに見られたいもんねー♡」

あやめ「それじゃあお兄ちゃん...そろそろチンポ、出しちゃおっか♡」

あやめ「なんでって、分かりきったことを聞くんだね」

あやめ「お兄ちゃんがどうしようもない、ロリコンで変態露出狂のドマゾ、だからだよ」

あやめ「見られると思って...興奮、したでしょ？」

あやめ「周りのJCにキモって笑われながら敗北お射精、したいって思ったでしょ？」

あやめ「あははっ、ざあこ♡」

かな「はいはい、マゾチンポ晒してフリフリおねだりしちゃお？」

かな「滑りを良くするために、涎をいっぱい手に絡めて...」

かな「にいにの好きなヌルヌルの手でえ、ちゅこ、ちゅこってしてあげるよお？」

あやめ「ほら、だーせ、だーせ♡」

かな「だーせ、だーせ♡」

あやめ・かな「さっさとチンポ出せ、このマゾ♡」

かな「うわぁ...本当に出しちゃった...こんなJCがいっぱいいる店内で...」

あやめ「あはっ、さすがの私もこんな状況じゃ引いちゃう～、変態♡」

かな「だ～め♡隠さないで？」

かな「恥ずかしいマゾチンポさん見せて♡」

あやめ「スン...スンスン...うわっ、くっさぁ、ちんぽの匂い、ここまできてるよ？」

あやめ「このままチンズリ激しくしたら周りも匂いに気づいちゃうかも♡」

かな「|にに、ただでさえチンカス凄いもんねー、嗅いで欲しいのかなぁ？」

かな「それじゃあ、お約束の涎でいっぱいにしたお手でマンコ、準備してあげる♡」

かな「んっ...ぐちゅ...お口に、涎をためて...ちゅる...」

あやめ「あはっ私も～、ん...ちゅる...溜まってきた...ぐちゅ...」

あやめ「ほらお兄ちゃん...見える？ 私の涎♡」

かな「せっかくだからぁ、このチンポに直接垂らしてあげる...」

あやめ「くすっ、ピクピク震えてると外しちゃうよ？ ...んっ...」

あやめ「ん...ぐちゅ...んべええ」

かな「ん...ぐちゅ...んべええ」

あやめ「うっわ、カウパーと混ざってぐちゅぐちゅのぬるぬる♡」

かな「テカテカしてえっろ～い♡ 良かったね、変態にいに♡」

あやめ・かな「それじゃ、おててマンコ開始♡」

あやめ「ちゅくちゅくちゅくちゅく♡」

かな「ちゅこちゅこちゅこちゅこ♡」

あやめ「お兄ちゃんの変態雑魚ちんぽを…」

かな「いにいのロリコン露出ちんぽを…」

あやめ「ちゅこちゅこ…にちゅにちゅ…ちゅこちゅこ…にちゅにちゅ」

カナ「ちゅこちゅこ…にちゅにちゅ…ちゅこちゅこ…にちゅにちゅ」

あやめ「しこしこしこしこ、しこしこ、しこしこしこしこし♡」

かな「しこしこしこしこ、しこしこ、しこしこしこしこし♡」

あやめ「あは♡チンポの皮めくれて、チンカス、出てきたよ？ きったな♡」

かな「うわぁ～、コスコスする度に、ツンとするようなオス臭がして、やばあ♡」

あやめ「ねえお兄ちゃん、嬉しそうにはあはあ息漏らしてるけど…」

あやめ「周り気にせずキモい声出していると、本当に周りの女の子にバレちゃうよ？」

あやめ「くすっ、やっぱりマゾバレ、したいの？」

かな「こんな風に優しくチンシコしてくれるの、私たちだけだよ？」

かな「普通ならキモがられて写真撮られて、学校中の女子にまわっちゃうよ？」

あやめ「でも最近のJCってエッチに興味津々だからあ…」

あやめ「お兄ちゃんのキモい写真見たら寄ってくるかも♡」

かな「マゾのチンズリ見せて～って、最初は動物を見るような目で見て…」

かな「そのうち発情した顔でマゾのチンズリをじっくり見て…」

あやめ「お兄ちゃんの雑魚ちんぽで妄想しながらオナニーしちゃうかもね♡」

かな「ほら、マゾバレしたくなってきた？ くすっ、ばあか♡」

女生徒A「おー？ かなにあやめじゃん？」

女生徒B「ほんとだー、おっつ～、おや、一緒にいるのは…」

かな「あ、こんちゃー！ 学校終わったんだ。この人は私の家庭教師だよー」

あやめ「そして私の兄貴ね、まあ、見ての通りさえないけど」

女生徒A「へーこんにちは、初めまして！いつも二人がお世話になってます...？」

女生徒B「その挨拶って正しいの？ こんにちは〜」

女生徒B「あやめちゃんはああ言ってますけど、カッコいいお兄さんじゃないですか」

かな「そういうこと言うと先生すぐ調子乗っちゃうからダメだよ〜」

かな「先生、今のはお世辞...お世辞ってやつだよ！」

かな「二人にこっそり雑魚ちゃんぽシコられてるマゾなのに、カッコいいわけないよね♡」

かな「ほら、チンシコやめてあげない♡ちゅこちゅこ...ちゅこちゅこ♡」

あやめ「二人ともここのスイーツ食べにきたの？ 新作食べた？」

女生徒B「そうそう、私楽しみで...前は品切れだったから」

女生徒A「今日こそは食べようって話してたんだよな！」

あやめ「ふーん、良かったね、今日はまだ品切れじゃないよ」

かな「でも急がないと無くなっちゃうから、早く注文した方が良いかも」

あやめ「お兄ちゃんはあ、スイーツよりも、あまあく囁かれながら...」

あやめ「ドマゾミルク、ぴゅっぴゅしたいんだもんね♡」

あやめ「ほら、二人にも見てもらう？この変態♡」

女生徒A「やったー！早速食べようよ！」

女生徒B「そうだね、それにしても...スンスン、何か変な匂いがします？」

女生徒A「そうか？私はあんま分からないけど...」

かな「あれ？にいにマゾバレしちゃうんじゃない？にひひっ」

かな「マゾバレしたらあ、二人にも見てもらいながら露出お射精しちゃう？」

あやめ「気のせいじゃないかな？それより早く注文したほうがいいよ」

女生徒B「あ、そうだった、それにしても...くすっ、素敵なお兄さんですね」
女生徒B「私、ちょっと興味あるかも...♡」
女生徒A「そろそろ注文しようぜ、それじゃあまたなー」

あやめ「うん、またあとでねー」
かな「まったねー！」

あやめ「くすっ、お兄ちゃん、ずっとヒヤヒヤしちやったね♡」
かな「ほんと、でも本当はにいに、マゾバレしたかったんじゃない？」

あやめ「バレるかもって思ってますます雑魚ちんぽ固くするなんて...」
あやめ「本当に最低のマゾ♡救いようがないね♡」

かな「もうマゾ癖がついて、蔑まれるのが大好きなちんぽになっちゃったね♡」

あやめ「このままだと本当にみんなにバレちゃうし...」
あやめ「そろそろ雑魚ちんぽから、敗北マゾミルク、出させてあげようかな～」

かな「あ、そだ、あやめっち、私いいこと思いついたんだよ！メッセージ見て」
かな「変態のにいにが好きそうなサプライズ、用意したんだよお♡」

あやめ「うわ、変態...でもお兄ちゃんなら興奮して喜んじゃうね、ロリコンだし」

かな「じゃあまずは私からね！ すぐ戻ってくる！」
あやめ「いってらっしゃい」

あやめ「何をしに行ったか気になる？ サプライズだから教えな～い♡」
あやめ「それよりさっきの子、もしかしたら本当に気づいてたかもよ？」
あやめ「最後お兄ちゃんの方見て舌なめずりしてたし...」
あやめ「雑魚ちんぽシコられてるドマゾの変態ってバレて...」
あやめ「面白い玩具見つけたと思われてるかも♡」

あやめ「またここに呼び出されて...もっと過激なこと強要されて...」
あやめ「オチンポ色んな方法で犯されて、最後にはどくどくマゾ汁お漏らし...」
あやめ「想像したらマゾ汁登ってきちゃった？ あはっ、まだ我慢だよ、お兄ちゃん」

かな「お待たせー！ 準備オッケー、今度はあやめっちだね」
あやめ「それじゃあ私も行ってこようかな...ちょっと待っててね」

かな「何だろうね、楽しみだね～、戻ってきてからの楽しみ♡」

かな「あ、ガムシロップ落としちゃった...よいしょと...」
かな「ん？ むふふ...んっ...ちゆる...じゆる...ちゅば...」
かな「ん～？ どうしたのにいに...ちゆる...れろれろ...ちゅばあ...はあ...くっさあ♡」
かな「なになって、落としただけだから拾ってただけだよ～...んちゅ...じゅば...ちゆるる...」
かな「ついでにい...ちゅっ...ちゅば...雑魚ちんぽの味見♡」
かな「はあ...んむ...ちゆるるっ」

あやめ「ちょっと、さすがにバレるよ？」
あやめ「まあ私はその時は全面的に兄貴のせいにするけど」

かな「あやめっちおかえりー！」
かな「いやあちょっと落とし物したら目の前にあって、ね...？」

かな「さてさて、あやめっちも戻ったことだし...サプライズ発表～」
かな「私たちの...おまた、おまんこのあたり見て...学校指定のスカート」
あやめ「いつもいやらしい目で見てるスカート、これをめくると...」

あやめ・かな「はい、ぺろん♡」

あやめ「まだ毛も生えてないツルツルのロリオマンコ♡」
かな「綺麗なJCのスジマンだよ♡ちんぽズボズボ入れて種付するところ♡」
かな「にいは手コキされながら、JCの生おまんこを視姦できるんだよ♡」

あやめ「舐めるように、じっくり見てオカズにしていんだよ♡」

あやめ「あ、あとこれ、脱ぎたてであったかい、JCの生パンツ♡」

あやめ「お兄ちゃんの好きな...メスガキの愛液付き♡」

かな「実は私も～、雑魚ちんぽ扱いてたら、おまんこ疼いちゃって♡」

かな「クロッチの部分染みになってたり♡」

あやめ「このパンツで雑魚ちんぽを包んでチンシコしてあげるね？♡」

かな「ちゃんとクロッチを亀頭にあてて扱いてあげる♡」

あやめ「それじゃあ、お兄ちゃんが好きなカウントダウンで最後イかせてあげる」

かな「雑魚マゾのいには射精管理されるの好きなだもんね」

かな「じゃあ5カウントから、イカせるつもりで最初から本気扱きするね♡」

あやめ「ご～お」

かな「ちゅこちゅこちゅこちゅこ...JCパンツに包まれながらのチンシコ最高でしょ♡」

あやめ「変態...変態...お外でJCに見られて感じる露出変態マゾ...ざっこお♡」

あやめ「もっと見て、もっと変態でマゾな僕を見て...」

あやめ「見られるとおちんぽもっと元気になっちゃうんですう...」

あやめ「ふふっ、きつも♡」

かな「よ～ん」

かな「あっ♡登ってきちゃう...子供マンコ視姦して、精子が登ってきちゃう」

かな「おちんぽ扱かれる度に、気持ちよさがとまらなくなっちゃう♡」

あやめ「くすっ、お兄ちゃん今の状況ちゃんと分かってる？」

あやめ「ほら、おまんこだけじゃなく周りも見てる？」

あやめ「学校帰りのJCがいっぱい♡」

あやめ「みんなの前で情けなくド変態絶頂きめちゃおうね～♡」

あやめ「さ～ん」

かな「やばいね～♡こんな状況で敗北射精したら癖になっちゃうね♡」
かな「マゾバレして女の子に囲まれて、みんな馬鹿にしながらパンツ見せてきて...」
かな「おちんぼ振るわせて女の子にびゅくびゅくザーメンかけちゃうとこ想像して？」

あやめ「お兄ちゃんの変態だから...ザーメン、みんなにぶっかけたいんだよね？♡」
あやめ「ほら、ぶっかけるところ想像して気持ちよくなっちゃお？♡」

かな「に～い」

かな「ちゅこちゅこちゅこちゅこ...あーそろそろいっちゃう？」
かな「まだ我慢だよ～、ここで頑張ったら最高に気持ちいい変態射精できるよ？」
かな「頑張ってびゅっびゅ抑えようね、変態さん♡」

あやめ「耐えろ耐えろ、出せの合図でちゃんとお漏らしするんだよ？」
あやめ「ほら次が最後、マゾ、がんばれマゾ♡」
あやめ「JCだらけの喫茶店でチンシコされて、だらしくマゾ顔晒してる雑魚♡」

あやめ「い～ち」

かな「最後だよ～、しこしこしこしこ、マゾ、この変態、ロリコンマゾ♡」
あやめ「ちゅこちゅこちゅこちゅこ♡」
あやめ「もう少しで白濁ザーメンぶちまけられるよお♡」

かな「あーやばいイクイク...JCのマンズジ見て、脱ぎたてパンツでチンポ扱かれて...」
あやめ「耳元でいっぱいマゾ煽りされて、蔑まれるところ想像して...お射精しちゃう♡」

あやめ「いいよお、負けろ負けろ....マゾらしく汚いオス汁出しちゃえ♡」
かな「恥ずかしいアへ顔晒して、JC二人にマゾ堕ちさせられちゃえ♡」

あやめ・かな「イケイケイケ...このド変態、ほら、いっちゃえ♡」

あやめ「びゅくびゅく～びゆるびゆる～♡ぴゅっぴゅ♡」

かな「びゆるびゆる～、びゅく...びゆるるる～♡」

かな「うわっ、パンツにマゾザーメン染み込んで、サイッター♡」

あやめ「ぴゅっぴゅ...尿道の最後までぴゅっぴゅ...♡」

あやめ「敗北おしゃせーお疲れ様...パンツがマゾ汁でぐしょぐしょ♡」

かな「こんな状況でも、こんなにたくさんびゆるびゆるできるなんて...」

かな「にいは本物の露出狂だね♡へんたい♡」

かな「くすっ、じゃあこのマゾ汁まみれのパンツ、履いてあげる♡」

あやめ「私たちのこのスジマンに...お兄ちゃんの濃厚ザーメンがくっついちゃう♡」

かな「今なら見えないし、じっくり舐めるように見ていいよ♡」

あやめ「ほら、お兄ちゃんの精液でドロドロになったパンツ...ゆっくり履いて...」

かな「あんっ♡お股のところ、ぬちゅぬちゅするよお♡」

かな「こってりミルク、私の子供おまんことキスしちゃってる♡」

あやめ「ほら♡すごい染み...エッチな水音がするう♡」

あやめ「ぬるぬるして、私の愛液と精液が混ざってるの、興奮する？」

あやめ「くすっ、きっも♡良かったね、お兄ちゃん♡」

かな「ごちそうさま♡にいに、またこようね♡」